

社会とつながり、
心豊かに



女性大学

— 令和7年度 第2期 えるのす連続講座 —

開催
報告

10/8
(水)



あっという間に季節は秋に移り変わり、日も短くなってきた10月8日、令和7年度第2期えるのす連続講座～女性大学～が開講しました。第1講目は北海道大学大学院理学研究院教授の倉本圭さんにご登壇いただき「水惑星の誕生と進化 第2の地球は存在するか？」という夢のあるテーマで幕開けしました。講義では、地球とよく似た天体である火星の特徴や性質を学び、果たして宇宙に知的生命体の住む惑星が地球以外に存在するのか、という壮大なテーマにまで及びました。2026年にはJAXAの「MMX計画」が予定されており、火星と地球に大気・水がどうもたらされたか探る計画が進行中です。まだまだ謎の多い宇宙について、今後も注目していきたいと思いました。

10/14
(火)



第2講目は「湯けむりの向こうから」と題し、温泉利用指導者・温泉ソムリエインストラクターの高野紀康さんをお迎えしました。肌寒くなってきた今の季節にぴったりのテーマで受講生の期待も膨らみました。温泉好きが高じて過去には温泉を経営した経験もある高野さん。前半はクイズ形式で温泉にまつわる知識を楽しく学び、すぐに実践したい効果的な入浴方法を知ることができました。後半では、温泉に関わる興味深い取り組みを実践されている北海道内のお店や施設を紹介いただき、知ることのなかった沢山の発見がありました。時間の許す限り、たっぷりと温泉の魅力に触れた、心も温まる2時間でした。

10/21
(火)



第3講目は、私たちの食生活に大きな影響のあるお米にフォーカスを当て、北海道大学名誉教授の荒木肇さんにご登壇いただきました。「安心して米をつくり食べられる生活」と題し、前半では稲の生育と特性について学び、後半では米不足・高騰の背景や歴史を紐解きました。まだ聞き慣れない「アグロエコロジー」という考え方にも触れ、環境への配慮で注目の集まる新しい農業のあり方についても知ることが出来ました。お米の増産や安価安定供給への道のりは一本の直線道路ではなく多岐に渡ること、そしてそれは私達消費者の行動も関係することを学びました。

10/28
(火)



第4講目は「めったに聞けない医療史、介護史のお話」と題して、日本医療大学総合福祉学部教授の林美枝子さんをお迎えしました。昨年度、北海道に縁のある荻野吟子についてお話しいただき、受講生からの反響も大きかった林さん。当時、そろそろ「研究仕舞い」だと仰っていた林さんですが、今もお精力的に活躍されています。今回は「共生社会」から「共死社会」への応用についての提言、ジェンダーの視点から日本における医療、介護の歴史についてお話しいただきました。「こうあるべき」という性別役割分担から解放された社会の実現に向けて、何ができるかをあらためて考えさせられる時間でした。

11/11
(火)



第5講目は「ブラサトル」の愛称でお馴染みの和田哲さんをお招きしました。「札幌おもしろ歴史散歩」と題し、札幌の歴史を楽しく学びました。聴講して感じたのは、まさに「灯台下暗し」。札幌在住でも知らないことが沢山あることに驚き、あらためて自分の住む町の魅力に気づかされました。今すぐ誰かに話したくなるような話題を惜しみなく、たっぷりと2時間お話しいただいた和田さん。受講生の皆さんは、普段何気なく通っている街並みをじっくりと眺め、楽しみながら帰宅したのでは？と想像が膨らみました。

社会とつながり、
心豊かに



女性大学

— 令和7年度 第2期 えるのす連続講座 —

開催
報告

11/18
(火)



「芸術の秋」ということで、第6講目は「うんざりするほど長いクラシックの超名曲を好きになるために」と題し、音楽に関するテーマを取り上げました。講師は藤女子大学講師であり、音楽評論家の多田圭介さん。多田さんはさっぽろ劇場ジャーナルの編集長も務めていらっしゃいます。講義は音楽から哲学の分野にまで及び、大変奥の深いお話しをお聞きすることができました。所要所でオーケストラの演奏を聴きながら、秋の余韻に浸った2時間。最初から最後までなかなか聴く機会のなかった名曲をもう一度聴いてみたくなりました。

11/25
(火)



第7講目は「健康をつくる食べ方のコツ」と題し、いつも受講生の関心が高い「食生活」をキーワードに、札幌保健医療大学栄養学科教授の百々瀬いづみさんをお招きしました。講義では、気負わずにすぐに始められる食べ方のコツが満載でした。特に1日の始まりとなる朝食は健康をつくるためにとても大切だと教わりました。また、どのタイミングでどんな栄養素を摂取するとよいのか、その食事例も具体的にご紹介いただきました。季節の変わり目に気になる心と体の健康に目を向けることができ、元気に年末年始を迎えられそうです！

12/2
(火)



2026年に放送予定の大河ドラマ第65作「豊臣兄弟!」。豊臣秀吉と、それを支えた弟・秀長の絆が見どころの1つようですが、秀長については詳しく知らない・・・という方が多いのではないのでしょうか。第8講目は「豊臣兄弟とその時代」というテーマで、放送前の予習として國學院大学北海道短期大学部教授の堀越祐一さんから歴史の流れを学びました。秀長が長生きしていれば豊臣家の天下は安泰だった、とも言われていますが、秀長の実態はあまりよくわかっていないのだそうです。大河ドラマではどのような描かれ方をするのか、とても楽しみになる2時間でした。

12/9
(火)



残すところ、あと2回となった女性大学の第9講目は「谷川俊太郎の詩と絵本一生と死を考える」と題し、北海道大学名誉教授の中村三春さんをお招きしました。2024年11月、92歳でお亡くなりになられた谷川俊太郎さん。絵本の作品も数多く残り、子どもにも大変馴染み深い有名な作家です。講義では作品に触れつつ、研究を重ねる中村さんだからこそ語ることのできる「知られざる谷川俊太郎」の魅力に迫りました。中村さんの講義を通して、普段の思考や感情とは違う所を揺さぶられるような、不思議な感覚を覚えました。

12/16
(火)



令和7年度第2期の締めくくりは、北海道新聞社論説主幹の蛭川隆介さんをお迎えし「現在（いま）を知る」をテーマに世の中の動きや出来事を読み解き考えました。蛭川さんにご登壇いただくのは4回目。紙面だけでは伝わらない新聞記者目線での講話は、毎回楽しみにしている受講生が多いのが特徴です。今回は、これまでの政権を振り返りつつ、発足したばかりの高市政権の行方に焦点を当ててお話しいただきました。日本初の女性首相誕生は、日本政治の歴史的な出来事であるのは勿論のこと、連立政権の枠組みが変わったという意味でも歴史に残る1年でした。まだ始まったばかりの高市政権を今後も注視していきたいと思います。